

学 校 保 健

平成17年9月

No. 258

(財)日本学校保健会ホームページアドレス
http://www.hokenkai.or.jp/

JAPANESE SOCIETY
OF
SCHOOL HEALTH

(財)日本学校保健会

第48回全国学校保健主事研究協議会

「自ら守り育てる心とからだ」

—「山形方式」による全国大会開催—

第48回全国学校保健主事研究協議会山形大会は、学校保健主事会という組織を持たない山形県として、小・中・高等学校教育研究会が中心になり実行委員会を組織した。実行委員長、副委員長、各部の部長はほとんどが小・中・高等学校の校長が務め、各校種ごとの養護教諭部会の全面的な協力を得て大会を開催した。開催5ヶ月前に実行委員会を立ち上げたにもかかわらず、短期決戦の動きにより、何とか当日を迎えることができた。2日前の宮城県沖地震の影響が小さかったことが幸いした。

大会主題「自ら守り育てる心とからだ」のもと、全国各地から学校保健活動に携わる300余名の参加者を得て一日目がスタートした。全国学校保健主事会の小嶋保廣会長、佐藤敏彦山形県教育長のあいさつに続いて、文部科学大臣祝辞(代読:戸田芳雄体育官)があり、引き続き学校保健功労者表彰が行われ、友田義一氏、森寿夫氏(四国・愛媛県)、藤永弘氏(中国・山口県)の3氏が受賞、最後に時期開催地あいさつを茨城県立佐和高等学校長住谷光一氏が行った。

記念講演では、文部科学省スポーツ・青少年局体育官の戸田芳雄氏から「生きる力を育む学校健康教育の推進について」と題してご講演いただいた。「あなたにとって健康であるとはどんなことですか」という参加者への問いかけで、様々な答えを引き出しながら始まった講演は、和やかな中に最初から盛り上がりを見せた。

急激な変化を続ける社会に主体的に対応し、たくましく生きるための心身の健康と体力は、「生きる力」を育むための基盤であり、「生きる力」そのものである。子どもを取り巻く心身の健康・安全を巡る状況には、厳しいものがあり、学校保健、学校安全、学校給食(食)の密接な関連を図りながら総合的に進める必要がある。

そのような中で、保健主事は学校保健のみならず学校健康教育全体の要、そしてコーディネーターとして一層重要な役割を果たすよう期待されている。との趣旨で、好評を博した記念講演であった。

大会二日目は、全体会での実践研究発表から始まった。

「学校保健委員会に関すること」のテーマにより、岩手県一戸町立一戸中学校保健主事の古井美恵子先生の発表、「エイズ教育(性教育)に関すること」のテーマでは、山形県長井市立長井南中学校保健主事の佐々木昭江先生と県立長井高等学校養護教諭の相場千明先生、「心の健康の保持増進をめざす教育活動に関すること」のテーマで、茨城県西茨城郡岩瀬町立南飯田小学校保健主事の中澤淑子先生と研究主任の稲川伊知郎先生が発表を行い、その後、分科会では、様々な質問の中に、学校保健委員会の名称を学校安全委員会にしたらどうかなどの提案も飛び出し、活発な応答が行われ各部ごとに大きな拍手のもと大会の幕を閉じた。

目 次

全国学校保健主事研究協議会	1
全国養護教諭研究大会	2
各ブロック大会等の報告	2-7
シリーズ①「健康教育を支える～学校歯科医の現場から～」スクール・ヘルスプロモーションの構築を目指して	8-10
官庁の動き	11
事務局からのお知らせ	12
東京都医師会編「学校医の手引き」発刊	13
高校生のための「くすり教育に関する教材」	13
平成17年度「学校保健用品・図書等推薦」	14
幹旋販売商品のご案内	14
虎ノ門	15
事務局便り	15

会報を良くするため、読者のご意見を求めています。FAXでお寄せください。

乞御回覧

校 長	教 頭	保健主事	養護教諭	学校栄養職員	P T A	会 長	副会長	

平成17年度全国養護教諭研究大会 全国養護教諭連絡協議会

『生きる力を育む健康教育の推進と養護教諭の役割』

—心豊かで活力ある子どもを育てるための連携の進め方—

東大寺の大仏様や戒壇院の四天王、奈良公園を行き交う鹿達に見守られて、8月4日(木)5日(金)の2日間、歴史の町奈良市で17年度の全国養護教諭研究大会が盛会のうちに開催されました。

全体会場の奈良市文化国際ホールは、全国から集まった養護教諭の熱気であふれ、全国の養護教諭の生きる力を感じることができました。

第1日目は、開会式に続き、記念講演、基調講演、シンポジウムが行われ、文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課健康教育企画室健康教育調査官の采女智津江氏による基調講演「生きる力をはぐくむ健康教育の推進と養護教諭」やシンポジウムを通して養護教諭の更なる飛躍を確信した次第です。また、日本音楽療法学会認定音楽療法士・まつぼっくり少年少女合唱団主宰の荒井敦子氏による記念講演では「歌の力」と題し、お話と歌で綴られており、子どもの頃遊びながら歌ったなつかしいあの歌この歌を、会場の参加者とともに歌ったり手と手を合わせたりしているうちに、体の力が抜けてとてもリラックスできました。そして、いつの間にか忘れていた子どもの頃の生活を思い出し、あの頃の家族の温かさを体中で感じ、胸の熱さを感じました。荒井氏が老人ホームでお手玉をしたり、高齢者がその頃歌っていた歌を歌うと、認知症の方が「あんたがたどこさ…」と口ずさむという話に驚くとともに、高齢者が、子どもの頃の歌を通して幼かった頃や自分の生き様を思い出し、それが生きる力につながってい



くのだなと、まさに演題の「歌の力」を感じることができました。しかし、今の日本の子どもが高齢者になったとき、全国共通の誰でも口ずさむことができる歌はあるのか、歌いながら幼い頃を思い出し、家族の優しさや温かさを感じることができるのかなど、子どもを取り巻く厳しい社会環境のなかで、健康教育の必要性や養護教諭の役割の重要性を改めて考えさせられました。

第2日目は、課題別研究協議会が9課題でそれぞれの会場で熱心に行われました。心豊かな人間性を育むためには、他人を思いやる心やお互いを認めて共に生きていく態度を育てる必要があり、それに加えて現代の健康課題や問題行動等に対応できる心身の健康づくりは、自己と他者の相互作用の中で分化・統合しながら発展していくものであるから、学校・家庭・地域の連携を強化させていくことの必要性を強く感じた奈良大会でした。

各ブロック大会等の報告

「生涯にわたる健康の基礎 づくりの推進」

第56回十四大都市学校保健協議会
実行委員会

平成17年5月22日(日)、第56回十四大都市学校保健協議会が杜の都仙台市で、約520名の学校保健関係者を集

めて開催された。

この協議会は「生涯を通じて、健康で、たくましく生きる児童生徒を育成するため、十四大都市学校保健関係者が当面する健康・安全の諸問題を研究協議し、学校保健の進展を図る」ことを趣旨として、毎年政令指定都市の持ち回りで開催しているものである。

当日は、午前9時から、仙台市藤井市長と日本学校保健会若林副会長を来賓に迎え開会式が執り行われ、続いて行われた全体協議会では前回開催都市の札幌市からの

報告、次期開催都市を川崎市に決定、本協議会に、今回から静岡市を新規加入承認などが提案通り了承された。

その後「健康教育」、「保健管理」、「心の健康」、「地域保健」の4つの分科会に分かれて課題別協議会が行われた。それぞれの分科会では、多様化する生活環境のもと、子どもが生涯にわたり健康でたくましく生きていくための健康教育・保健活動のあり方等について、各都市の代表による口頭及び紙上提言があった。この提言を受けて各都市の参加者により、健康づくりに取り組む意識や基本的な自己管理能力を育み、解決していこうとする「生きる力」を支援するための活発な意見交換・協議が行われた。

分科会の後、記念事業として、本年5月の仙台青葉まつりで「すずめ踊りのコンテスト」において、最高の賞に輝いたグループによる「すずめ踊り」の舞が披露された。小気味良いテンポとリズムによって会場狭しと舞う雀たちに、全国各地からお出でいただいた学校保健会の先生方も魅了され、大いに盛り上がった。

続いて、宮城県出身のフリーアナウンサー生島ヒロシ氏による記念講演が行われた。アントニオ猪木のテーマソングとともに現れた生島氏からは、「心の健康、体の健康、もひとつおまけに・・・」と題してラジオのレギュラー番組「健康一直線」の拡大版のごとく、パワフルに、時には笑いを誘い、時には参加者の体を動かし、「財布の健康」も含め、多岐にわたる健康に関する講演をいただいた。



以上のように、一日を通して中身の濃い内容で開催された本協議会は、次期開催都市の川崎市に引き継がれることになるが、同じ問題を抱える参加者が、一堂に会し同じ視点で協議できる本協議会のますますの発展を祈念する。

最後に、仙台市での開催は13年ぶりであったが、参加者からは、「充実した得ることの多い大会であった」との言葉も数多くいただいた。成功裡に閉会できたことに、主催者の一員として安堵している。これは、ひとえに忙しい中、提言原稿を寄せていただいた各都市の提言者をはじめ、遠方からお出でいただいて活発な協議をいただいた参加者の皆さんのおかげにほかならない。また、後援いただいた文部科学省・日本学校保健会・宮城県教育委員会と、前回の開催市札幌市教育委員会や各都市の方々からご協力・ご助言いただいた。この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。



第27回 近畿学校保健連絡協議会 奈良県学校保健会

平成17年7月14日(木)、近畿2府4県3政令指定都市の学校保健関係者200名余りが奈良市ならまちセンターに集い、第27回近畿学校保健連絡協議会が開催された。

開会式では、奈良県学校保健会の有山雄基会長及び(財)日本学校保健会の若林明副会長の挨拶、奈良県教育委員会事務局の松井秀史教育次長から歓迎のご挨拶をいただきました。

続いて、2府4県3政令指定都市の学校保健会並びに学校保健連合会の代表に登壇いただき、有山会長と和歌山県学校保健連合会の前田社郎会長の進行により協議を開始しました。

まず、要望事項について、提案理由を含め説明いただき、引き続いて、研究課題について説明いただきました。今回は、情報交換や研究協議を行う時間を特には設けず、提案いただいた事項に対する質問等の時間を若干設けました。

今回、説明いただいた要望事項及び研究課題のまとめを下記に照会する。

この連絡協議会の後半では、長崎県出身で、現在は京都大学大学院医学研究科社会疫学分野助教授でエイズ、性教育の専門家として、全国的に多方面で活躍中の木原雅子先生をお迎えし、「中高生の性意識の実態とこれからの予防教育のありかたについて ～テレーラメードの予防教育～」をテーマとして、講演をしていただきました。参加者からは、大変貴重な講演を聴かせていただき参加してよかったの感想をいただきました。

最後に、和歌山県学校保健連合会の前田社郎会長から次期開催県の挨拶があり、奈良県学校保健会七海朗副会長が閉会の挨拶をいただきました。

本協議会の開催に当たり、ご支援・ご協力いただきました関係各位に厚くお礼申し上げますとともに、本協議会のますますの発展を祈念申し上げ報告と致します。

【研究課題】

- ①養護教諭の複数配置の推進
- ②保健主事の資質の向上と体制整備
- ③保健室の施設設備の充実
- ④学校環境衛生充実強化のための財政援助
- ⑤児童・生徒の「心の健康問題」に関する対応の充実
- ⑥心臓検診(心電図検査)の小学校4年生での実施
- ⑦マニュアル等指導指針の作成、配布
- ⑧学校保健の啓発事業の推進

【研究課題】

- ①歯科保健の充実(小学校におけるフッ化物洗口の取り組みと12歳児DMF指数調査対象の拡大)
- ②個人情報の適切な取り扱い
- ③健康教育の一層の推進
- ④健康管理の充実と対策

第27回 近畿学校保健連絡協議会



第51回 中国地区学校保健研究協議大会 山口県学校保健連合会

平成17年8月17日(水)・18日(木)の2日間、標記研究協議大会が、山口県山口市山口市市民会館を中心に5つの会場で、大会主題を『生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進』と設定し開催された。中国地区各県から学校保健関係者520名の参加者が、第1日目は、全体会と職域部会、第2日目は班別研究協議会を行った。

大会第1日目の全体会では、精神科医で山口県精神保健福祉センター所長であり、山口県クライシスレスポンスチーム(CRT)の隊長である河野通英先生から『学校危機管理とこころのケアー えっ? まさか! そんなあ…』というテーマで、105分間の特別講演をいただいた。

CRTは、学校危機へのメンタルサポート(緊急対応)を目的に、平成13年6月9日(池田小学校の事件の翌日)に設立を提案し、研修会や情報センター立ち上げ等、諸準備の後、平成15年度5月から出動可能となり、同年8月から正式にスタートした。CRTは、今日までに8回の出動があり、今年6月の山口県立光高等学校の爆発物事件等への緊急対応を中心に、子ども、保護者、教職員等への具体的な対応や留意点についてお話いただいた。学校安全及びこころのケ

アは重要な課題であり、参加者からは「たいへん参考になった」と大好評であった。

職域部会では、学校薬剤師部会、校長・園長部会、学校保健・安全担当教員部会及び養護教員部会が開催された。学校薬剤師部会は、「各県のダニ又はダニアレルゲンの測定の実施状況」というテーマでシンポジウムを開催した。校長・園長部会は、山口県立大学教授林隆先生から「軽度発達障害の理解と支援」というテーマで講演をいただいた。学校保健・安全担当教員部会は、下関市立内日中学校校長赤松知先生から「保健主任のあり方」というテーマで講話をいただいた。養護教諭部会は、「時代に即した養護教諭のあり方をもとめて～語り合おう子どもたちの心とからだを見つめて～」をテーマにシンポジウムを開催した。それぞれの部会で充実した研修が実施された。

第2日目は、7班に分かれて、班別研究協議会を実施した。6つの研究協議題について研究発表、研究協議を行い、指導助言者から今後の実践の示唆をいただいた。

○第1・2班研究協議題

「生涯にわたりたくましく生きる力を育む保健安全教育」

○第3班研究協議題

「豊かな人間性を育む性教育・エイズ教育」

○第4班研究協議題

「快適な学習環境づくりをめざす学校環境衛生活動」

○第5班研究協議題

「歯と口の健康づくりをめざす学校歯科保健活動」

○第6班研究協議題

「豊かな人間性や社会性を育み、心の健康づくりをめざす教育活動」

○第7班研究協議題

「子どもの健康を守り育てる薬物乱用防止教育」

本研究大会を開催するにあたり、御支援御協力をいただいた全ての皆様に対し、心より厚くお礼申し上げます。以上、報告とさせていただきます。

第16回四国学校保健研究大会 第38回四国養護教諭研究大会 第12回四国保健主事研究大会 第16回四国学校保健研究大会等 実行委員会事務局

平成17年8月18日(木)・19日(金)の2日間、標記研究大会が徳島県徳島市の徳島県郷土文化会館において開催された。四国各県から学校保健関係者約550名の参加のもと、「生涯にわたり、心身ともに健康でたくましく生きる児童生徒の育成」—現代的課題に対応する健康教育の推進

一を大会テーマとし、1日目は記念講演とシンポジウム、2日目は校種別研究協議会を行った。

大会1日目は、シンガーソングライターで、作家でもある、こんのひとみ氏から、「小さな声を受けとめていますか？」と題した記念講演をいただいた。

歌や本の朗読を交えながら、今までかかわってこれた子どもたちへの想いや、子どもたちを取り巻く人々への愛を熱く語られた。一人ひとりの心に寄り添うことの大切さ、また、著書にある「くまの校長先生」とのかかわりを通して、人の命について、教育についても熱心に話された。参加者が書いたメッセージカードに即興でメロディーをつけて歌うなど、参加者と一体となったすばらしい講演であった。

参加者からは、「一言一言が胸にしみた。」「お話をお聞きして、とても元気をいただいた。明日からまたがんばってみよう、との思いが生まれました。」などの感想が寄せられ、大変好評だった。

続いてのシンポジウムでは、「心身の健康に関する現代的課題への対応」—生活習慣病予防対策における組織活動について—をテーマに、管理職、養護教諭、地域保健、保護者のそれぞれの立場からの提言があった。どの発表もすばらしく、パワーポイントを活用して多くの資料が提示され、分かりやすい内容であった。徳島県医師会常任理事の馬原文彦氏をコーディネーターとして、健康教育における連携のあり方を中心に協議が行われ、参加者からも熱心な意見が寄せられた。予定時間を超えたが、途中で席を立つ人もなく、大変充実した研究協議となった。

大会2日目の校種別研究協議会では、小学校部会、中学校部会、高等学校・盲・聾・養護学校部会に分かれて、研究発表と研究協議が行われた。

それぞれの部会において、3名による実践に基づいた研究発表の後、どの会場も熱心に研究協議が行われた。

本大会の開催に当たり、御支援と御協力をいただいた皆様に心から感謝申し上げ、報告とします。

第38回東北学校保健大会 兼第52回秋田県学校保健 研究大会

秋田県実行委員会

平成17年8月10日(水)・11日(木)の2日間にわたり、標記大会が秋田市文化会館で開催された。東北各県から約650人の参加を得て、「心身ともに健康でたくましく生きぬくことができる子どもの育成をめざして」～健康教育の推進と子供たちの安全・安心～の大会主題のもと、初日は全体会、2日目は分科会が行われた。



第1日目(全体会)

大会初日の全体会では、開会式において財団法人日本学校保健会副会長森本基氏から御祝辞をいただいた後、引き続き、平成17年度秋田県学校保健・学校安全表彰式が行われ、個人(11)、組織(1)、団体(1)がそれぞれ表彰された。

この後、大会を記念し、森昭雄氏(医学博士、日本大学教授、日本大学大学院教授)により「ゲーム脳と教育」の演題のもと講演をいただいた。ゲームにより害を受けた脳を回復させるための対策としては、読書、書道、俳句、歩行やジョギング、お手玉(3個以上)、音楽やいろいろな人との会話等が有効であり、これらは豊かな人間形成にも役立つこととお話しされた。

第2日目(分科会)

大会2日目は、次の6分科会に分かれて課題別研究協議会が行われた。分科会では、それぞれの研究協議について各県の代表による実践発表の後、参加者による意見交換を行い、最後に助言の先生から今後の学校における健康教育推進のための適切な示唆をいただいた。

- 第1分科会「歯・口の健康づくり」～すすんで歯・口の健康づくりに取り組む子どもの育成のあり方～
発表者：高村真里子(岩手) 菅昭子・高橋和恵(秋田)
助言者：小西一峰(歯科医)
- 第2分科会「心の健康」～子どもの心の健康問題に対応するための教育活動の進め方～
発表者：鈴木久仁子(山形) 佐藤由紀子(秋田)
助言者：芝山啓(精神科医)
- 第3分科会「性教育・エイズ教育」～子どもの発達段階に即した性教育(エイズ教育)のあり方～
発表者：菅谷由美子・阿部悦子(秋田)
助言者：後藤薫(産婦人科医)
- 第4分科会「喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育」～安全で安心な社会と健康を守り育てる喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の進め方～
発表者：石川久美子(福島) 宮野祐子(秋田)
助言者：佐々木吉幸(薬剤師)
- 第5分科会「安全教育」～健康で安全な生活を実践できる子どもの育成と、安全安心な環境づくり～
発表者：松本和子(青森) 伊藤州子・川井朋子(秋田)

助言者：毛利博信(市教委)

○第6分科会「食教育」～学校と家庭が連携しながら進めていく
望ましい食事と食生活習慣の指導はどうあればよいか～

発表者：渡邊美由紀(宮城) 菊地和子(秋田)

助言者：渡邊義實(中学校長)



最後に、本大会の開催にあたり、御指導・御協力を賜りました関係者の皆様方に、心から感謝と御礼を申し上げ報告とします。

第5回 九州地区健康教育研究大会 沖縄県実行委員会



「生涯にわたって、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進」をテーマにした第5回九州地区健康教育研究大会が8月8日・9日の2日間にわたり、県立武道館アリーナ等を会場に、九州各県から健康教育関係者約1,000名が参加して、盛大に開催された。

第1日目(全体会)

開会式では、稲富大会会長の「様々な健康課題に対応するためには、学校における健康教育を充実させることが必要であり、その推進役である健康教育関係者がそれぞれの専門性を発揮し、連携した指導の体制づくりが重要である。」とのあいさつに続き、財団法人日本学校保健会の内藤専務理事が「子どもの心身の健康問題は、速やかで確実な解決或いは対応策が求められており、学校や家庭、地域社会や関係団体の連携・協力が必要不可欠なものとなっており、日常的に一体となって取り組むことが期待されている。」との植松会長からのメッセージを代読された。

シンポジウム

○テーマ「生涯にわたって、心豊かにたくましく生きる力を育む
健康教育の推進～ゆらぐ健康・長寿、沖縄から考える～」

○コーディネーター

パイオ21株式会社 常務取締役 佐渡山美智子

○シンポジスト

国立大学法人琉球大学名誉教授(元沖縄県副知事)

農学博士 尚 弘子

那覇市医師会生活習慣病検診センター

副所長 崎原 永辰

那覇市立松川小学校 養護教諭 池原あさみ

NPO法人うていーらみや

文化部長 田中美也子

我々は「長寿沖縄」をどのように獲得してきたか。なぜ、今、長寿の危機が叫ばれているのか。将来の長寿復権に向けて何をなすべきか等、沖縄から県外に発信する内容での、それぞれの専門的な研究に基づく提言であった。

参加者からは「4人それぞれに主眼が明確であり、また関連性もあり、沖縄の郷土を取り入れた説得力のあるシンポジウムであった。」等の感想が聞かれた。

特 別 講 演

○演題「人づくりの種をまく～地域発! 元気体験夢舞台～」

○講師 平田大一氏[南島詩人・那覇市芸術監督]

詩人、演出家らしく笛、三線、太鼓を駆使したひとり舞台で参加者を魅了し、一人一人に感動体験を味わわせた講演であった。

・人づくりの種をまく、それは涙を流すほどの感動体験である。

・感動的な演出をしてあげないと子どもたちには響かない。

・大人が自分の夢を語れなくては、子どもに夢を語れない。

「とても感動し、元気が出た。沖縄の熱いパワーをもらった。」との声が多く聞かれた。

第2日目(分科会)

3会場に分かれて午前6分科会・午後6分科会の計12分科会を開き、それぞれの分科会ごとに教諭や養護教諭、学校栄養職員らが、学校での実践を発表。

フロアの参加者を交え、児童生徒の心と体の健康について熱心な研究協議を繰り広げた。

第1分科会 健康相談活動(小学校)

第2分科会 健康相談活動(中学校、高校)

第3分科会 保健室経営

第4分科会 衛生管理

第5分科会 児童生徒の活動への支援

第6分科会 学校保健室経営

- 第7分科会 性教育
 第8分科会 薬物乱用防止教育
 第9分科会 食に関する指導
 第10分科会 心の健康教育
 第11分科会 生活習慣病の予防
 第12分科会 安全管理・安全教育

最後に、本大会の開催にあたり多大なる御支援・御協力をいただいた関係各位に感謝を申し上げ報告とします。

いのち輝く健やかな社会の実現を目指す、心豊かで元気な子どもの育成
第56回関東甲信越静学校保健大会
栃木県連合学校保健会事務局



平成17年8月25日(木)、関東甲信越静の1都10県より1,000名を超える学校保健関係者が栃木県総合文化センターに集い、盛大に開催されました。

午前中の全体会では、開会行事の後、宇都宮大学の和唐正勝教授より「これからの学校での健康教育を考える」と題し、演習を盛り込みながら、大変わかりやすい講演をいただきました。

講演の内容をここに全て伝えることができないのが残念ですが、以下に、演習問題を含めた要旨を読んでいただき、講演内容を想像してください。

1 今なぜ学校で健康教育を行うのか

演：小・中・高校生に鼻出血の応急手当について質問しました。正解率が最も高かった学年は、どの学年だと思いますか？ ①小学5年生、②中学1年生、③高校1年生、④高校3年生

2 ヘルスプロモーションによる健康教育の考え方の転換

演：ヘルスプロモーションの発想に立てば、今、学校でもっとも健康教育を必要としている人は誰でしょう？

3 これからの健康教育で期待されるものは何か

(1)健康リテラシー(Health Literacy 健康の識字能力)を育てる

※健康リテラシーとは、「健康を増進したり維持したりするうえで、個人が情報にアクセス・理解・利用する動機及び能力を決める認知的・社会的スキル。単にパンフレット

を読めるとか、予約をうまく取れる以上のものを意味する。人々が健康情報にアクセスしやすくなり、それを効果的に利用できるようにしたりすることで、力を得るのに重要なもの」

演：次のうち、正しい順序はどれでしょうか？

①食前一食間一食後、②食前一食後一食間

(2)「行動」から「能力」へ

演：ストレスに対処する行動として正しい行動は、次のうちどれですか？

①ストレスとなる問題を解決しようとする。

②愚痴を言ったり、憂さ晴らしをする。

(3)「わかる」と「できる」をつなぐ一行動の質を問う

演：チンパンジーの歯磨きと、人間の歯磨きとは、どこが違うのでしょうか？

(4)「内容」と「方法」を一体として考える

演：教室での教師と生徒の会話と、一般の人同士の会話との違いをあげなさい。

(5)学校、家庭、地域の役割

4 おわりに

ヘルスプロモーションのゴールは、人々が努力や意識をしなくても健康的な環境のもと健康的なライフスタイルを選択できることである。

午後は、5班に分かれて、以下のような課題のもと、各班2題の研究発表の後、熱心な研究協議が行われました。

1班 教育目標の具現化を目指す学校保健

- ・学校保健安全計画のあり方
- ・学校保健委員会のあり方

2班 心身の健康を保持増進していく力を育む健康教育

- ・保健学習のあり方
- ・保健指導のあり方

3班 豊かな人間性と社会性を育み、生涯を通じて健康な生活を営む資質や能力を育むエイズ教育(性教育)及び薬物乱用防止教育

- ・発達段階に応じたエイズ教育の進め方
- ・薬物乱用防止教育の進め方

4班 歯・口の健康づくりを目指す学校歯科保健活動

- ・学校歯科保健活動の進め方
- ・学校歯科保健活動のあり方

5班 快適な学校環境づくりと安全な生活を送るための実践

- ・学校環境衛生活動の実施と事後措置
- ・防犯教室や安全確保のあり方

参加者からは、「実践に基づいた具体的な発表を聞くことができ、これから学校での健康教育に生かしていきたい。」「助言者から、これからの健康教育推進のための適切な示唆をいただいた。」などの感想が聞かれました。

最後に、本大会開催にあたり、御支援・御協力をいただいた関係の皆様により感謝申し上げます、報告といたします。

シリーズ ①

「健康教育を支える～学校歯科医の現場から～」

スクール・ヘルスプロモーションの
構築を目指して
(学校歯科医の立場から)清原歯科医院院長 清原 敏明
(宮城県歯科医師会 学校歯科委員会 委員)
(床矯正研究会 宮城県支部 事務局長)

(1)はじめに

私は現在、宮城県白石市内の公立中学校と公立高校の学校歯科医を任じられている。早いもので約10年の年月が流れた。この10年、ひとりの学校歯科医として関わった経験等をもとに、子どもの健康教育について若干私見等を述べてみたい。

ご承知のように「学校保健」には「保健教育」「保健管理」及び「組織活動」の3つの領域がある。

(2)「保健教育」について

歯科の「保健教育」を進める上で、歯と歯肉には感動する題材が豊富であるということ。

例えば

- ①鏡を見ることにより直接的に自分の状態を観察できる対象であること。(生きた健康教育教材)じっくりと自分の歯と歯肉を観察することにより、健康な状態と比較し、どこに問題があるのかを考えさせることが大切。事前に健康な歯と歯肉の写真を各人に配布し、それと見比べることにより、いっそう興味を引き出せる。
- ②乳歯から永久歯へと生えかわったり、永久歯が萌出したりすることを容易に体験することができ、指導の方法によっては、生への興味・関心を持つことも可能と考えられること。
- ③むし歯や歯肉炎などの病気と原因との知識・理解が容易であること。
- ④ブラッシングにおいては、その行動した結果が自己評価しやすいこと。
- ⑤子どもたちにとって珍しい対象ではなく、共通性に富ん

でいること。

ここでの教育は、あとでも述べるが、養護教諭と学校歯科医との綿密な連携が不可欠であるという一言に尽きる。私の場合、講話後のブラッシング指導は、できるだけ生徒の興味のひくツールを使用している(写真参照)。

学校でのブラッシング指導では、当医院からスタッフを総動員し、学年別や個人の指導に時間を多くとれるよう配慮している。教育内容は「保健便り」で保護者に連絡し、生徒には、授業の感想文を書いてもらい次回の授業に生かすようにしている。又、宮城県歯科医師会では年間を通じ、希望する県内の学校に対し、宮城県歯科医師会館内口腔保健センターで、最新器材を用いて「歯の学校」を開催している。

あとに述べるDMFT、数値は数値として真摯に受けとめる必要があるが、学校歯科保健活動は単に数値を下げるために行われるものではない。学校では歯科保健教育を通して、歯の大切さやそれを維持する術を教えるところであり、その結果として自ら健康づくりを実践できる子供を育成することが目的である。そのための学力を身につけさせることが大切で、特に小学校での計画的な歯科保健教育が重要。そこで身につけた知識や生活習慣が中学・高校へとつながっていく。

(3)「保健管理」について

養護教諭と学校歯科医が行う大切な「保健管理」のひとつに健康診断があり、ここでは私が取り組んでいる学校歯科検診について述べたい。

①学校歯科健診

ア. 健診時に各自歯ブラシを持参させる・・・頭部に健診用ライトを固定(帽子をかぶるような感じ)、右手にミラー、左手に歯ブラシで、健診の精度を上げる。

イ. 健診と保健指導の一体化

ウ. 「健診を年2回」も一つの選択肢

・・・歯磨きの実践授業後に健診又はその逆

問題のある児童生徒に関してはより個別指導的に

エ. 給食後の歯みがき

・・・担任が進んでやってみせることで、児童生徒も自ら進んでやる

オ. 担任の積極的健診参加



…健診の内容を担当自ら記録、そして自らも健診を受ける。

PS.宮城県歯科医師会学校歯科委員会で、「健診パネル」を作製。今までにない仕上がり具合となっている(興味のある方は連絡願いたい)。

②「歯科健康診断結果のお知らせ」用紙

宮城県では、県教育委員会の依頼により、県歯科医師会学校歯科委員会が(例)を作製提示、県教育委員会が各公立学校に周知、各学校長の裁量権により配布されている。必要があれば、各学校の学校保健委員会又は各地区の学校保健委員会で内容を検討する。

今年度は、私の地元の白石刈田学校保健委員会で、委員の方々の御協力により、白石刈田地区統一用紙を作製した。地区の基準を統一化する意味合いは統計処理においては大切である。

統一用紙の内容について述べると

- ア.「1要観察」の文言を変更して「要相談」に訂正…従来は経過観察としてきたものを、積極的に歯科医院を受診して予防法を含めて相談する必要性を強調。
- イ.「この用紙の内容と歯科医院での検診結果が異なることがあるかもしれませんが、それは歯科医院での検診が正確な診断を行うための詳しい検査になるためです」という文言を加筆し、…「**学校で行う健診**」と「**歯科医院で行う検診**」との違いを明確化して、現場の混乱を避ける。学校歯科健診は、スクリーニングであるから、「歯科健康診断結果のお知らせ」用紙に、虫歯の本数の記載は必要ない。
- ウ.「歯並び・噛み合わせ」に問題がある場合の対応には、学校側としてどのように対処すればいいのか迷うこともあると思う。以下は一つの選択肢としてお役立て願いたい。

〔床矯正研究会〕という全国組織がある。平成17年8月現在で全国585医院が所属している。全国会員名簿等詳細は、後述の当医院ホームページをご参照願いたい。

口腔育成、口腔成育などの視点よりも幅を広げた〔口腔顔面育成〕、21世紀は顔の時であるとも言われている。

又、最近、口をポカンとあけた子どもが多いように思う。口呼吸には色々な問題がある。○耳鼻咽喉科的 ○悪習癖 ○歯並び(遺伝・環境)の他にも最近、○乳幼児期からの口唇閉鎖力が注目されている。学童の口唇閉鎖力を測定して、その結果から何が解ったのか大変興味深いデータが当医院ホームページのMENU「マタニティーから子育てハートフル情報」に記載されているので是非ご覧頂きたい。実は、世界中の赤ちゃんが、最初に発する意味のある言葉は“マンマ”なのです。“マンマ”は世界中の赤ちゃんの共通語といえる。さて、“マンマ”の意味は、“ゴハン”であり、“母親”であり、“乳房”であり、哺乳類にとっ

て最初の栄養源は母乳で、この母乳を獲るためには、口唇で乳首を捕らえ吸啜する。そのためには、口を動かして閉鎖する事が必要になる。いずれにしても、赤ちゃんにとって最初の意味のある言葉が、哺乳類の特徴である唇音の「マ」で始まり、それが生きていくために必要不可欠であることは興味深い。

成人になっても口を開けて寝ていれば、鼻炎の原因にもなるだけでなく、口腔内が乾燥することにより歯周病・口内炎・舌炎・う蝕症のリスクも高まる。又、喉の乾燥により扁桃周囲の炎症・扁桃の肥厚を生じ、口臭の原因や、睡眠障害によるいびき症や睡眠時無呼吸症候群を患うリスクも高まる。

現在、口唇閉鎖力を改善すべく、色々なメーカーから機能訓練用具が発売されている。

(4) 組織活動について

組織として、特に学校保健委員会の活動状況と、そこでの情報の共有化の必要性を述べたい。

①活動状況(委員会の構成は、割愛)。

- ア. 教職員の協力体制・校内研修、学校医等との連携。
- イ. PTA活動、家庭との連携。
- ウ. 地域の人材活用、関係機関・団体等との連携、学校間の連携。
- エ. 学校保健委員会(年2回開催)、地域学校保健委員会(年1回開催)。

②情報の共有化

この学校保健委員会を通じて、関係者全員が情報を共有化することが重要である。“乳歯う蝕が多い子は、永久歯う蝕も多い”ことが学術統計により示されている。健康づくりにも「手遅れ」がある。むし歯や歯肉炎のような病気には好発年齢があり、歯列・咬合や顎関節についても発育期だからこそ重要な健康課題となっている。生涯にわたる健康生活のためには「あの時にこうしておけば…」にならないようにすべきであり、歯・口の健康課題は、歯・口の健康そのものの対策時期としても学齢期は重要な意味を持っていることを強調しておきたい。「他律的健康づくり」と「自律的健康づくり」の境界に位置するのが学齢期である。この時期に、誰かが気付かないと、誰かが気付かせないと、健康には手遅れということがある。そして、保育園・幼稚園→小学校→中学校→高等学校というように発達段階に応じた連続した活動の必要性が求められている。う蝕という病気をみれば平均値では、全国的に減少してきているのは事実であるが、むし歯の有病状況は2分化してきているといわれている。むし歯のない子どもの数も増加してきているが、一人で何本もむし歯を持っている子どもがおり、乳歯から永久歯に交換する時期に行動変容が起こるか起こらないか、保護者や歯科医療関係者の他律的健

健康管理が届くか届かないかで、結果として2分化する結果となる。その必要性を啓発する学校関係者の役割は大変重要である。関連して近年特に問題視されるようになったのが、「虐待」である。

また平成14年、東京都の児童福祉センターあるいは乳児院に措置された虐待児147名について、わが国で初めて歯科医が歯科健診を行った結果、一般児に比べ2歳児の一人平均う歯数は7倍、永久歯では11歳児は2.7倍であり、特に治療率が非常に低いという報告がある。

③統計の扱い

養護教諭も学校歯科医も、自分が勤務する学校のDMFTの年次推移だけを追ってみても、減少しているのが通例で、その地域における学校がおかれている現状が読めない。まず大切なのは、小学校1年生から高校3年生までの各学年のDMFT値を、【①県】→【②教育事務所】→【③市町村】→【④自分の勤務する学校】というようにしっかり把握することである。現状が分からなければ適切な学校保健活動はできない。平成15年度の12歳児のDMFTを前記に当てはめると、私の場合には、【①2.61】→【②2.57】→【③2.64】→【④1.89】となり、文部科学省平成16年度学校保健統計調査12歳児の一人平均DMF歯数は1.91で、まずまずの結果であると言える。

また平成15年の歯・口の調査結果の分析と今後の課題(宮城県学校保健会発行)では、高校3年生の未処置歯所有者率が全国平均33.20%に比べて、宮城県では45.64%と高値を示している。

しかし現在私が校医を務めている高校では9.4%と一桁台に抑えられている。健全歯所有者率も宮城県平均は、高1 16.34%、高2 13.52%、高3 10.82%であるが、私が校医をしている高校では、高1 30.0%、高2 27.5%、高3 27.1%と約30%を維持している。

以上のような結果は、学童期からのフッ素の利用のみに頼ってきたわけではない。

フッ素の応用は間違いなく有効であるが、フッ素入りの歯磨き粉を勧める以外には積極的にフッ素は勧めてはいない。予防というと、すぐフッ素をイメージする方もいるが、フッ素は手段の一つである。データがあまり芳しくない学校は、まず現状を見据えながら、一番大切なのは“自律的な食生活や生活習慣の改善”にあることを認識し、養護教諭と学校歯科医が真剣に対策を練ることが極めて重要である。

「健診結果の統計の収集分析とそのフィードバック」と「歯科保健情報の伝達」が肝要である。

また統計処理においては、養護教諭側から見れば「統計処理上のミスをしてできるだけなくすること」、学校歯科医側からみれば、「健診方法の不備をできるだけなくすること」が大切である。

④学校歯科医の任期(当医院ホームページに詳述)

各地域により事情は異なるが、【ひとつの学校に勤務する歯科校医の在任期間を設ける】ことが肝要である。教育委員会は「地方公務員」＝「既得権はない」ことを前提に、意欲ある歯科医師を任命すべきである。学校歯科医の人選について述べると、公立の場合、教育委員会が歯科医師会に推薦依頼し、歯科医師会は教育委員会に対して推薦名簿を提出。最終的に教育委員会が任命、辞令交付する。教育委員会が音頭をとって、学校歯科医の任期制を計るべきだと考える。全国的に見ても、任期制・定年制を導入している都道府県市町村が多々ある。歯科医師会も、もし「議論もせずに、毎年前年度と同じ学校歯科医の名簿」を教育委員会に提出というような、時代にそぐわない保守的・閉鎖的慣例があるとすれば、即刻改めなければ学校歯科保健の教育水準は、全国水準から10年20年単位で大きく遅れをとることになるだろう。ひとつの学校に10年も20年も在籍するのは、決して正常な状態ではなく、地域の学校歯科保健にとって好ましいことではない。組織改革なくして、学校歯科保健教育の向上はありえない。“まず權より始めよ”である。

(5)おわりに

これまでの学校保健はどちらかというと、「指導管理型活動」であったと思う。

「目標：むし歯、歯肉炎＝0」を掲げ、学校保健関係者である養護教諭と学校歯科医とが、それぞれ別な立場から児童生徒を後押ししてきた。

しかし、これからは、「目標＝生涯にわたる自律的健康づくり」を掲げ、教師・養護教諭、学校歯科医、家庭、児童生徒の共通理解のもと、「健康」を児童生徒が自律的に考察できるような、スクール・ヘルスプロモーションの構築が望まれている。

学校には、心の問題、性の問題、生活習慣病の問題、安全の問題、いじめの問題のような見えない課題(内在性課題)がある。

歯、歯肉、咬合、顎関節、口腔、舌、顔面のような見える課題(外在性課題)は、少しでも内在性課題を解決する糸口にも成り得るのではないかと、最近特に考えるようになってきた。

学校保健教育に携わっている私達は、幼児・学童・生徒たちの将来に関わる本当に大切な分野を担っている。今後とも関係の皆様のご活躍を祈っている。

*筆者のHPアドレス等は下記の通りです。

<http://www.kiyoharashika.jp/>
〒989-0229 宮城県白石市銚子ヶ森10-39
e-mail アドレス esprit@kiyoharashika.jp
TEL 0224-25-1030 FAX 0224-25-1070

「官庁の動き」

厚生労働省関係

1. 平成17年5月10日に「子どもの事故防止のための市町村活動マニュアルの開発に関する研究」(厚生労働省科学研究・子ども家庭総合研究事業による) 報告書が厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課から公表された。この調査は、現在子どもの事故は、1歳以降の小児期において死因順位が第1位であることから、目標値として事故防止対策に取り組む市町村の割合を100%にすることが掲げられているが、その進捗状況と実態を明らかにしたもの。概要によると、回答のあった1995市町村の内、乳幼児検診における事故防止指導を行っている市町村割合は88%で、「充実した指導をしている」と回答した市町村はわずか1.5%。半数以上が「指導不十分」と考えているとしている。また市町村は、乳幼児検診時及び育児教室における指導マニュアルを希望しているところが多く、半数以上の市町村では発達段階の事故防止パンフレットや安全チェックリスト等の教材を希望していることが分かった。
2. 平成17年8月20日に「第24回日本思春期学会」において、国立保健医療科学院は、「青少年の生活習慣と健康」と題して、厚生労働省研究班の成果を中心に、我が国の思春期の健康リスク行動について、「1. 禁煙と飲酒行動」、「2. 薬物使用」、「3. 食習慣と学校生活」、「4. 睡眠、休養及びこころの問題」、「5. 性行動」などの実態と課題を発表した。この概要によると、中1と高3の「禁煙と飲酒」について、1996年、2000年、2004年の全国調査によるモニタリングした結果、男女ともに喫煙率と飲酒率いずれも低下していることが分かった。また中1と高1「食習慣と学校生活」について、朝食をほぼ毎日食べない人の割合は、女性より男性、中学より高校で高くいずれも増加傾向を示している。学校が楽しくないと思う割合は、女性より男性、中学より高校で高いがいずれも減少傾向にある。また、女性の性感染

症の罹患率の高いことが分かった。

文部科学省関係

1. 平成17年8月26日に「学校における受動喫煙防止対策実施状況調査」の結果が文部科学省スポーツ青少年局健康教育課から公表された。これは平成17年2月27日に発効した「たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約」で受動喫煙防止のための措置をとることが盛り込まれていることに伴うもので、今後の施策の参考にするため、学校での防止対策等の実施状況について、全国の学校等に照会した結果をまとめたものである。調査結果によると、対策を講じている学校は95.3%で、その内学校敷地内の全面禁煙措置を講じている学校が45.4%。対策を講じていない学校が4.7%であることが分かった。学校種別にみると小、中、高校ではそれぞれ約99%。幼稚園で84.6%が対策を講じていることが分かった。なお対策を講じていないと回答した学校でも、そもそも喫煙者がいないことなどもあり、その必要性がないことによって対策を講じていないと回答したことが推測されとしている。
2. 「学校施設等における吹きつけアスベスト等使用実態調査について(依頼)」
平成17年7月29日付、17文科施第154号により文部科学省大臣官房長から各都道府県知事・各都道府県教育委員会教育長など宛に標記調査の依頼があった。
アスベスト被害が社会問題化していることから、子どもたちの安全対策に万全を期すために、学校施設での使用実態調査を実施。平成17年11月15日までの回答を求めている。また学校の設置者等に、調査の結果、露出面に吹きつけアスベスト類等があり、安定していて飛散のおそれがない場合であっても、児童、生徒、学生のボール遊び等による破損の際には、アスベストの繊維が飛散するおそれがあるため、教職員、児童、生徒、学生等に周知をはかるとともに、ア

スベストの繊維が飛散しないよう適切な維持管理を行うよう指導を求めている。

3. 「学校におけるアスベスト（石綿）を含有する製品の取扱い等について」

平成17年8月5日付、17文科初第584号により文部科学省スポーツ・青少年局長ほか3関係局長から各都道府県知事・各都道府県教育委員会教育長など宛に標記の通知があった。

内容は学校の設置者等に、学校で理科の授業等において使用される石綿付金網その他の実験機器等や学校給食の調理時に調理員が使用する耐熱手袋等、アスベスト（石綿）を含有する製

品について、使用状況等の把握と石綿を含有しない製品への代替に取り組むよう、またアスベスト（石綿）を含有する製品の廃棄にあたっては、廃棄後の被害を生じないようにするため、各都道府県の廃棄物行政主管関係部局と連携の下、適正に処理する必要がある旨の指導となっている。

4. 平成18年度の学校保健センター事業（補助金）に係る文部科学省の概算要求額について

平成18年度の概算要求額は、87,606千円となっており、前年度予算額に比べて10%の要求減となっている。

事務局からのお願い

昨年10月に、「足の健康と靴のしおり」冊子を本会で作成、小学校と中学校に配布させて頂きましたが、覚えておられるでしょうか。主に学校や保護者が、適切な靴選びができるような指導資料として作成したのですが、その後多くの方々から好評で、もっと足や靴のことについて知りたいとの要望を頂きました。確かに私たちは子供の足や靴のことについては、日常の健康維持にとって大切なことであるにもかかわらず、意外に関心が薄かったように思います。靴選びのための適切な本や足についての専門書が極めて少ないこともあるでしょう。しかし何よりも子供の足について調査研究をしようとしたとき、例えば基本となる適正

な計測データがないということが分かりました。足と健康との関係や足と適切な靴等について、より究めるためにも今後この計測は必要不可欠となります。現在「足の健康に関する調査研究委員会」で計測方法や計測機器等について議論がなされていますが、その前に学校において靴選び等の指導について、どのように取り組んでおられるのかなどを今後アンケートしたいと考えています。

つきましては、配布させて頂いた冊子についてのご感想やご意見、或いは足と靴に関しての提言など何でも構いません。ご意見等を是非お聞かせ頂ければ幸いです。(Fax : 03-3592-3898)



子どもの『靴原病』を防ぎましょう

Point 4 JES環境効果

地球の健康も考え、使用済みの靴底を回収して、新しい上履きに作り直す「上履きのリサイクル」システムを完成しました。

Point 3 JES吸圧効果

カカト部分の衝撃吸収材は大きなデルタ形状。着地時の破壊的衝撃を吸収分散します。



Point 1 JES呼吸効果

靴底の通気孔は、足の発汗による熱気や湿気を放出します。

Point 2 JES教育効果

つま先が広く5本の指が自由に動かせるゆったり設計の靴型

足に合わない小さなクツや先の細いクツを履いていると足指が変形したり爪が痛くなったりします。
子ども達は、一日に5～7時間も、学校内で上履きを履いて生活しています。
子どもの靴原病を予防するために上履きを見直して下さい。

JESシューズは、足を科学することから生まれたスクールシューズです。



日本教育シューズ協議会

本部事務局 / 〒703-8258 岡山市西川原1丁目11番6-1号
TEL.086-272-5463 FAX086-273-9439
<http://www.jes.gr.jp/>

21世紀の健康

東京都医師会編「学校医の手引き(平成17年版)」発刊のお知らせ

東京都医師会編「学校医の手引き」が9年ぶりに改訂されました。昭和52年の初版から数えて第6改訂版にあたります。

この数年間で、学校保健をとりまく状況は大きく変わりました。感染症法の改正に伴う学校伝染病の取り扱い変更、結核健診の大幅な変更、色覚検査の廃止などです。

使いやすい手引きであることを大前提に、簡潔でありながら、関連機関の連絡先やホームページアドレス、学校保健法や学校保健法施行規則も記載してあります。

東京都医師会学校医委員会の先生方が中心となって執筆いたしました。それぞれが心をこめて書きつづった手引きです。学校医の先生方はもちろんのこと、養護教諭の先生方にも活用されることを期待しています。

ご希望の方には有償頒布いたします。(1冊 2,500円、送料込み)

【連絡先】東京都医師会保健医療課学校保健係／電話03-3294-8821(代)



【A4版 245ページ】

■目次■ 学校医総論(執務の内容)／学校医の立場／学校医の歴史／学校保健安全計画／学校保健委員会／学校医と地域との連携／学校医と健康教育／健康手帳／定期健康診断／結核の健康診断／眼科健康診断／視力／耳鼻咽喉科健康診断／聴力検査／児童生徒の平衡機能検査／音声言語検査／事後措置・健康相談／水泳の保健指導／就学時の健康診断／教職員の健康診断／臨時健康診断／学校心臓検診／突然死／腎臓検診／生活習慣病／貧血／寄生虫検査／脊柱・胸郭・四肢／学校医において予防すべき伝染病／特別支援教育／気管支喘息／結膜炎／色覚検査／アレルギー性鼻炎／人工内耳／急性音響性難聴／心因性難聴／皮膚科領域／脊柱側弯症／スポーツ障害／熱中症／性感染症／性教育／学校精神保健総論／精神遅滞／広汎性発達障害／注意欠陥／多動性障害(ADHD)／特異的発達障害／統合失調症／気分障害(躁うつ病)／子どもの神経症・情緒障害／睡眠障害／摂食障害／チック障害／てんかん／教師のメンタルヘルス／学校環境衛生の基準／学校給食／喫煙／薬物乱用／学校保健会／東京都医師会学校保健部／東京都医師会学校医会／学校保健関連団体／学校保健の各種大会・研究会・研修会／資料集／関係法規／要保護等児童生徒援助費(医療費)／独立行政法人日本スポーツ振興センターによる災害共済給付制度／心肺蘇生法(CPR)と自動体外式除細動器(AED)

高校生のための「くすり教育に関する教材(冊子)」を贈呈します FAXでお申し込みください(無料)

薬物乱用防止教育の重要性が広く認知され、より一層積極的に取組まれている学校も増えてきています。一方で、最も身近な「薬物」であり、一般的に服用する薬への基礎的な教育については、これからの取り組み課題といえる状況です。

そこで、自分の体に合った薬を選び、服用するために「正しい薬の使い方」を学び、自己管理の意識を高めていただくために高校生向けの小冊子を作成いたしました。薬の種類・選び方・買い方・服薬の仕方、身近な学校薬剤師やかかりつけ薬剤師の必要性が学べます。各学校におきましては、養護教諭や学校薬剤師がご指導する際にご利用いただければ幸いです。



*** 高校生のための、くすり教材 ***

「高校生のためのくすりルールブック ～鎮痛薬で学ぶ、正しい薬知識～」

対象：高等学校生徒

監修：杉下順一郎(薬剤師・日本学校薬剤師会会長)

望月真弓(北里大学薬学部臨床学研究センター医薬品情報部門 教授)

企画：日本学校薬剤師会

推薦：日本学校保健会

協賛：大正製薬株式会社

*** お申し込み方法 ***

「くすり教材」事務局 【FAX】03-3549-1685宛て、①学校名、②住所、③電話番号、④ご担当の先生のお名前、⑤副読本の希望冊数(例)1学年分〇〇冊 とご記入の上、お申し込みください。

数に限りがございますので、先着順で締め切らせていただきます。ご了承ください。

【お問い合わせ】電話03-3541-1058 【担当】稲垣・中谷・廣瀬まで

平成17年度「学校保健用品・図書等推薦」

推薦期間 平成18年3月31日まで

NO.	品 目	摘 要	会 社 名
46	積層式マナイタ	古くなれば一枚一枚はがせる衛生的な調理用プラスチックマナイタ	山県化学株式会社

●エアーモニタ「換気予報」の斡旋販売のご案内

お部屋の空気よこれを知らせる

換気予報[®]
AIR MONITOR◆斡旋販売価格 9,500円(税別送料込)
希望小売価格 14,800円

シックハウス対策の決め手は換気です。

「換気予報」は、空気のを感知して、

換気のタイミングをお知らせするので、

児童・生徒への換気教育に最適です。



学校での換気の習慣づけに「換気予報」

ご購入の
お申込方法は①学校名②住所③電話番号④申込者名⑤「換気予報」申込台数をご記入の上、
下記あてにFAX送信または郵送してください。

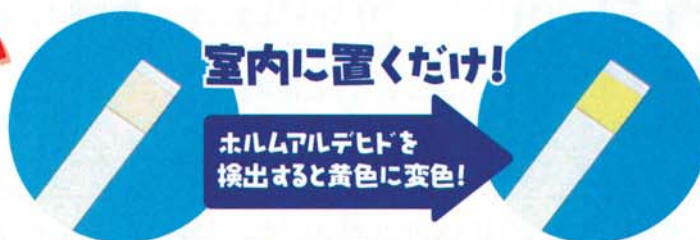
財団法人 日本学校保健会 事務局

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-3-17 虎ノ門2丁目タワー6階

FAX. 03-3592-3898

お問い合わせは

商品やご注文に関するお問い合わせは、当会・事務局までお電話でどうぞ。 TEL.03-3501-2000

シックハウスの
原因物質を
簡単チェック!

ホルムアルデヒドテストストリップ



関東化学株式会社 試薬事業本部 試薬部 TEL: (03) 3663-7631

インターネットでも
商品の情報をご覧いただけます。
<http://www.kanto.co.jp/siyaku>

虎ノ門(118)

受動喫煙

夏休みは、子どもたちにとって大変楽しみであり、キャンプや旅行等学校では経験できない、いろいろな体験を通して学ぶことが大きいもの。すなわち家庭や地域で学ぶ時と言えるのではないか。

筆者も、毎年夏休みに行われる文部科学省主催の全国養護教諭研究大会に自己研修として参加している。今年は奈良県で開催されたため奈良に向かった。その行程中、家族連れで楽しそうな子どもの姿がちらちらで見られた。そんな中「これはどうかな」と思う事があった。それは、新幹線の車両内でのこと、事前に指定券を購入していないため自由車両に乗った。そこは喫煙車両でもあった。かろうじて席が空いていたのでホットして座ったが、やはりタバコの煙で10分とも座っていられなく席を立ち他の車両に移動した。しかし、その車両には小学生の子どもを含む家族連れが何組か座っており楽しそうではあったが、子どもにとっても決して良い環境とは言えなかった。

そんな事を感じながら、大会会場に着いた。折りしも午後からのシンポジウムのテーマが「心豊かで

活力のある子どもを育てるための学校・家庭・地域社会との連携の進め方」であった。シンポジストの一人でいらっしゃる、奈良女子大学大学院教授、京大病院総合診療部禁煙外来担当医、高橋裕子先生のご発表に、「子どもたちにとってタバコの影響は受動喫煙を受ける被害者として始まる。最近の調査では児童生徒の80%が家庭内の受動喫煙を受けていることが判明した。受動喫煙は発達途上の子どもたちに健康面での影響を及ぼすのみならず、ADHDや行為障害などを生じやすいという報告もあり、子どもが将来喫煙者になりやすくなるなど、精神面や行動面での影響も大きいことが指摘されている。」とのご発表があった。まさしく、あの新幹線内での状況も受動喫煙である。

現在、学校においてはライフスキルを育む健康教育等を通して喫煙防止教育の実践がなされている、それと共に環境の整備が重要であると感じる。タバコの自動販売機の問題、タバコの広告について、学校敷地内の喫煙、家庭内で家族の喫煙等である。子どもたちの生活すべての場で環境整備が行われなくてはならず、まさしく、学校・家庭・地域との連携が必要であることを痛感した。

(編集委員 野地 絹江)



事務局便り

いくつかの台風が日本を襲い、各地に大きな被害をもたらした。アメリカではハリケーンが猛威をふるい、未だに水が引けず、多数の死傷者がでている。そういえばここ数年地球上では天候異変が起きている。温暖化のため氷河が溶けて海水の水位が上がっているという事実など新聞、テレビなどで報じられている。

日本列島の今年の夏は、30度を超える真夏日が記録的に延びている。高校生が体育祭の練習中に熱中症にかかり病院に運ばれるなど健康被害も多くみられるようになった。

日常生活で建物の中で仕事をしているときと、外出したときの温度差があまりにも大きく、体のためにはいいことではないはずである。まだまだ残暑が続

くと思われる。時節柄ご自愛のほどを願っている。

さて、会報「学校保健」も今月号で258号となり、昭和29年(1954年)の第1号発刊以来半世紀に及び、現在では毎号88,500部発刊している。最近では平成14年1月の240号よりカラー印刷とするなど、努力をしているところであるが、さらに紙面を見直し、「官庁の動き」などの記事を入れるなどして編集者一同知恵を出し合って新しい編集方針や記事内容で進めている。

読者の皆様、本誌に対するご希望ご意見等ありましたら、お聞かせください。編集会議で検討し、より見やすい紙面と充実した内容を読者の皆様にお届けしたいと思っている。

(会報編集委員会委員長 林 真示)

カワイ肝油ドロップ

発育期に欠かせないビタミンが凝縮されたカワイ肝油ドロップは、「わんぱく」を応援します。



カワイ肝油ドロップC (医薬品)



レモン風味



カワイ肝油ドロップM (医薬品)



オレンジ風味



製造 河合製薬株式会社

販売 河合製薬株式会社

東京都中野区中野6-3-5

TEL: 03-3365-1156(代)

歯の健康に、 キシリトールの力。

むし歯のない社会へ



厚生労働省許可 保健機能食品(特定保健用食品) (財)日本学校保健会推薦 (社)日本学校歯科医会推薦



しっかり届く。
きれいに磨ける。

おはようからおやすみまで
くらしに夢をひろげる
LION

先端丸形カット



「先端丸形カット」の毛先で、
生え替わり期の高さが不揃いの歯も
きれいに磨けます。



ライオン
こども
ハブラシ
(6才~12才用)



推薦 日本学校保健会

大塚製薬



抽選で10校様へ
ポカリスエット500ml
ペットボトル1ケースを
無料進呈します。

(財)日本学校保健会推薦

学校名、住所、TEL、ご担当者名、担当職、学校でのポカリスエットの活用方法
をご記入の上、下記「健康と料理社ポカリスエットプレゼント係」宛てにハガキ
でご応募ください。※当選発表は発送をもって代えさせていただきます。【応募
締切】平成17年10月末日【応募に関するお問合せ】健康と料理社〒102-0075
東京都千代田区三番町24林三番町ビル4F TEL 03-5275-6838/担当 河西

【商品に関するお問合せ】大塚製薬株式会社 TEL 03-3293-6111 <http://otsuka.co.jp/poc/>

